

本シリーズで紹介しているアゲハチョウのなかまですが、南方系のミカドアゲハと同じ *Graphium* 属に分類されます。幼虫がクスノキの葉っぱを食べるため、松波町周辺にもごく普通に飛び交うチョウです。母チョウは大きなクスノキよりも小ぶりの木を好んで産卵し、松波町ではFさんが玄関前に鉢植えとしておられるクスノキがたいそうお気に入りです、いつのまにか幼虫がついていて知らないうちにきれいなチョウに育って飛び立っているようです。アゲハのなかでは最も飛ぶスピードが早く、飛んでいるときには翅表のブルーがちらつくことで見分けられますが、いろんな花の蜜や路面の湿り気を吸う際に、小刻みに羽をふるわせながら一定時間とどまってくれるので、そういうときにじっくり観察できます。翅表にはみごとな青色の斑紋が縦に並び、後翅の裏にはきれいな赤い紋が見えます。この青色はチョウが蛹から羽化して太陽光線をうけて初めて美しく発色します。沖縄や八重山諸島にもたくさん飛んでいるチョウで、南国で発生する個体はブルーが濃く鮮やかでその美しさはみごとです(参考:沖縄本島八重岳産)。

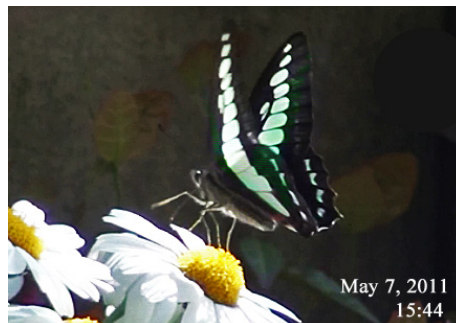


61106 八重岳 アオスジアゲハ

本種は前翅青帯に青紋が余分に出る変異体が知られていて、高砂市での私の記録はエサキ型が8回(西畑: May 6, 1980, Apr. 20, 2007, 荒井町新浜: 飼育羽化 Apr. 17 and 24, 2012, 松波: May 14, 2010, May 7, 2011, Mar. 30 and Apr. 4, 2016)、ハンキュウ型が4回(西畑: May 1, 2004, 荒井町新浜: 飼育羽化 Apr. 17 and 20, 2012, Apr. 4, 2016)で、2011-12年にかけての飼育で、高砂市荒井町新浜地区に変異遺伝子をもつ2群がいることを確認できました。

May 6, 1980 高砂市西畑
アオスジアゲハ♀ エサキ型May 1, 2004 高砂市西畑
アオスジアゲハ♀ ハンキュウ型

2004年5月のハンキュウ型は西畑テニスコートそばのウバメガシ葉上で交尾中の個体を見つけたものですが、持ち帰った後産卵してくれませんでした。2011年5月に松波町自宅庭のマーガレットにきたエサキ型や2016年4月に越冬蛹から羽化したエサキ・ハンキュウ双方の変異紋をもつ珍しい複合個体などは、若令幼虫の採集地である荒井町新浜地区が発生地域



だと推定できますが、今後ともこれら変異個体の出現について関心をもち、継続観察していきたいと思っています。